

### 3. バーチャルドメイン

## 3. バーチャルドメイン

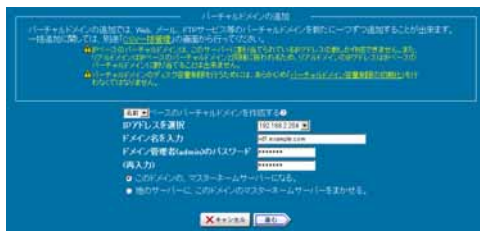
### 1. 概要

この章では名前ベースのバーチャルドメインを例にとり、実際のバーチャルドメインの作成方法及びその運用方法について解説します。IPベースのバーチャルドメインに関しましても基本的には同様の操作でお使いいただけます。名前ベース及びIPベースのバーチャルドメイン固有の操作に関しましては、文中にその旨が記述されておりますのでご注意ください。

## 2. バーチャルドメインの作成

この項ではバーチャルドメインの作成方法について解説します。バーチャルドメインを作成して運用するためには、作成前に適切にマシンを設定しておく必要があります。マシンの設定方法につきましては、マシンの設定の章をご参照ください。メインメニューの「バーチャルドメイン管理」をクリックし、サブメニューの「バーチャルドメイン追加」をクリックします。

### ■ バーチャルドメイン基本情報の設定



この画面では、バーチャルドメインの基本情報を入力します。

「名前」ベースのバーチャルドメインを選択します。この章では例として、`virtualse.com`を入力したものと仮定します。複数のネットワークインターフェースを備えたシステムでは、「IP アドレスを選択」で、バーチャルドメインサービスを提供するインターフェースの IP アドレスを選択します。

バーチャルドメイン名を、「ドメイン名を入力」の欄に入力します。

ドメイン管理者(admin)のパスワードをパスワード入力欄及び再入力確認欄に入力します。ここで入力された値がバーチャルドメインの管理者(admin)が、管理画面にログインする際のパスワードになります。絶対に忘れないようご注意ください。



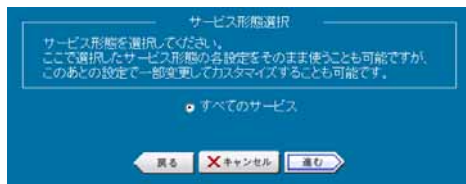
ログインするには「admin@ドメイン名」のようになります。

マスターネームサーバーの選択チェックボックスでは、自分自身がそのドメイン(`virtualse.com`)のマスターネームサーバーとなる場合には「このドメインの、マスターネームサーバーになる」を選択します。このチェックを入れることにより、ネームサーバーに自動的にそのバーチャルドメインのエントリが追加されます。他のネームサーバーがマスターネームサーバーになっている等、特にその必要が無い場合は、「他のサーバーに、このドメインのマスターネームサーバーをまかせる」を選択します。このサーバーに `bind` パッケージがインストールされていない場合は、マスターネームサーバーの選択チェックボックスは表示されません。この章では、例として自分自身がマスターネームサーバーとなった場合を仮定して設定を進めてゆきます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

### 3. バーチャルドメイン

#### ■ テンプレート使用の選択

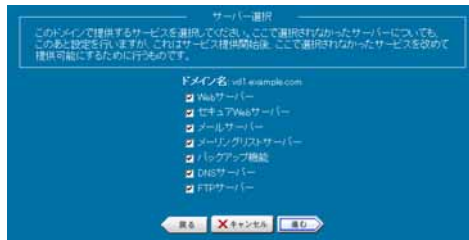


HDE Controller ISP Edition では、バーチャルドメイン毎にきめ細かい使用サービスや制限等の設定を行うことができます。これらの設定をテンプレートとして登録する事により、同じ権限を持ったバーチャルドメインを簡易に作成することができます。

テンプレートを作成していない状態では、「すべてのサービス」というテンプレートが唯一選択可能な状態になっています。この章では、これを選択したものと仮定して設定を進めてゆきます。テンプレートの使用方法につきましては、マニュアルをご参照ください。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

#### ■ 使用サービスの設定



作成しようとしているバーチャルドメインで提供するサービスを選択します。不要なサーバーを選択から外すことにより、システムの負荷を下げることができます。この章では、全てのサーバーを選択したものと仮定して設定を進めてゆきます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。



バーチャルドメインの管理画面に表示されるメニューを選択します。作成したバーチャルドメインの管理者が HDE Controller の管理画面にログインすると、この画面で選択したメニューが表示されます。

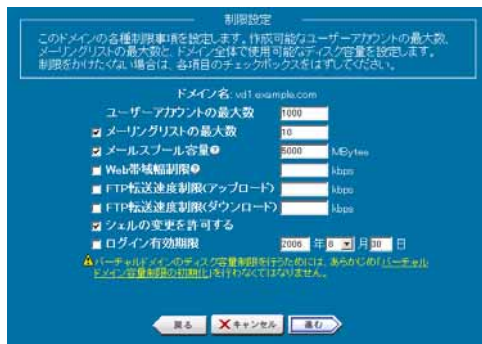
各メニューはサブメニューに分割されており、サブメニュー単位で設定することができます。全てのサブメニューが選択されていないメニューはメインメニューに表示されなくなります。

使用方法の一例として、前画面の「サーバー選択画面」で「Web サーバー」の使用を選択しつつ、「運用メニュー設定」の「Web サーバー」の選択を外すような運用方法が考えられます。こうすることにより、Web サービスを利用することはできても、バーチャルドメインの管理者が Web 公開ディレクトリの設定を行うことができないようなバーチャルドメインを作成することができます。

特に制限をかける必要がなければ、デフォルトの全て選択された状態で問題はありません。この章では、特に制限をかけなかったものとし仮定して設定を進めてゆきます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

## ■ 各種制限の設定



バーチャルドメインの各種制限を設定します。制限をかけたい項目の左のチェックボックスをチェックし、制限値を入力します。「ユーザーアカウントの最大数」は、必ず入力する必要があります。なお、システム全体の制限値を越えた入力は入力不可あるいは無視されますので、ご注意ください。

特に制限をかける必要のない項目はチェックボックスを外しておきます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。



Web ログはディスク容量制限には含まれません。また、メールスプールにたまったメールは「メールスプール容量」にのみ制限され、「最大ディスク容量」には制限されません。

### 3. バーチャルドメイン

#### ■ サービス毎の基本設定

Webサーバー設定

このドメインで使用するWebサーバーの設定を行います。  
サーバー名はwww.vd1.example.comとなり、サーバー管理者は  
webmaster@vd1.example.comとなります。  
なお、webmaster宛のメールは、adminに届きます。

Webサーバー名  vd1.example.com  
Webサーバーポート番号   
セキュアWebサーバーポート番号

戻る  進む

バーチャルドメインの Web サーバー機能について設定します。

「Web サーバー名」には、バーチャルドメインの Web サーバーとして公開する名前を設定してください。なお、バーチャルドメイン名のみでもアクセスすることが可能です。例をあげると、virtualdomain.isp バーチャルドメインの Web サーバー名として「www」を設定すると、http://www.virtualdomain.ispもしくは http://virtualdomain.ispとしてアクセスできるようになります。

「セキュア Web サーバーポート番号」には、セキュア Web(https)アクセスに使用するポート番号を指定します。「セキュア Web サーバーポート番号」は、システム内でユニークである必要があります。デフォルト値として現在使用されていない値が表示されていますが、変更される場合は他のバーチャルドメインで使用しているポート番号と衝突しないよう、ご注意ください。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

メールサーバー設定

メールサーバーのサーバー名を設定します。ユーザーは、このサーバー名を  
SMTPサーバー、POPサーバーとして指定します。

メールサーバー名  vd1.example.com

戻る  進む

メールサーバー名を指定します。自ホストがマスターネームサーバーとなっている場合には、この入力値がメールサーバーとして設定されます。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。

#### ■ ネームサーバーへ追加するレコードの確認

外部のネームサーバーを使用する場合には表示されているエンTRIESを追加してください。



このドメインのエクスポートデータがサーバー上に保存されている場合は、このファイルを指定することでデータの展開を行い、ドメインの移行が可能です。

「設定する」ボタンをクリックすると、バーチャルドメインが作成されます。この処理には時間がかかる場合がございますので、しばらくお待ちください。

## ■ サブドメインの追加

バーチャルドメインのサブドメインを登録するには、通常のバーチャルドメインを登録する場合と同様に設定することで登録することができます。



バーチャルドメインのサブドメインを「CSV一括追加」機能で登録すると、自ホストがマスターネームサーバーになるように指定した場合でも、親ドメインにサブドメインのNSレコードが追加されません。「DNSサーバー」-「レコード管理」を使用して手動で登録する必要があります。

## 3. バーチャルドメイン

### 3. バーチャルドメインの管理

バーチャルドメインの作成にて設定したバーチャルドメインの削除及び内容の変更を行うことができます。メインメニューから「バーチャルドメイン管理」をクリックし、サブメニューから「バーチャルドメイン管理」をクリックすると、「バーチャルドメインの管理」画面が表示されます。この画面には、現在登録されているバーチャルドメインの一覧がリスト表示されています。



#### ■ バーチャルドメインの変更

「バーチャルドメインの管理」画面に表示されている各バーチャルドメイン一覧の右側にある、「編集」ボタンをクリックすると、その設定内容を変更することができます。



変更できる内容は、「使用サーバーの選択」「運用メニューの選択」「各種制限設定」です。バーチャルドメイン名等、基本情報の変更を行うことはできません。変更項目の詳細につきましては、「バーチャルドメインの作成」の章及びマニュアルをご参照ください。

変更が終了しましたら、「OK」ボタンをクリックして「バーチャルドメインの管理」画面に戻り、「設定する」ボタンをクリックします。以上でバーチャルドメインの変更が完了します。

#### ● バーチャルドメインの削除

作成したバーチャルドメインを削除するには、「バーチャルドメインの管理」画面に表示されている各バーチャルドメイン一覧の左側にある「削除」チェックボックスにチェックを入れて選択します。

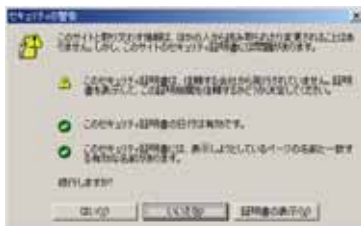
削除ドメインの選択が終了しましたら、「設定する」ボタンをクリックします。以上でバーチャルドメインの削除が完了します。



## 4. バーチャルドメイン管理画面のアクセス

バーチャルドメインの管理者が管理画面にアクセスするには、対応ブラウザにて以下の URL にアクセスします。

https://[ホストの FQDN または IP アドレス]:16590/



セキュリティ警告画面が表示されますので、「はい」をクリックして続行します。



認証ダイアログには以下のように入力します。

ユーザー名	[ユーザ名]@[バーチャルドメイン名](例:admin@virtualdomain.isp)
パスワード	バーチャルドメイン作成時に設定した管理者パスワード

## 3. バーチャルドメイン

### 5. Web サーバーの管理

Web サーバーの管理では、Web サーバーに関するバーチャルドメイン側の設定や設定変更を行うことができます。基本設定については、デフォルトの状態でご運用いただいても特に問題は発生しませんが、ご利用される環境に応じて変更をおこなってください。

#### ■ Web サーバー設定

##### ● 基本設定

通常は変更する必要がありません。

##### ● 詳細設定

- ・ バーチャルドメインのユーザーが Web を公開する際に利用される URL タイプを選択します。運用ポリシーに合わせて選択をしてください。
- ・ サーバログに、エージェント/参照元/画像 についてのアクセスを記録するか選択します。
- ・ リモートホスト名の逆引きについて選択します。



サーバログで、「記録しない」を選択した場合やリモートホスト名の逆引きをしない場合「アクセスランキング」のブラウザレポート/リンク元 URL レポート/ファイル種類別レポートやホストレポートが正しく表示されなくなります。

「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。

##### ● 詳細設定(セキュア Web サーバー)

バーチャルドメインのユーザーが、SSL 化された Web を公開する際に html ファイルをアップロードする場所を指定できます。

デフォルトでは、通常の Web を公開するディレクトリと同じに設定されていますが、異なるディレクトリを利用したい場合は「通常の Web サーバーと異なる場所に置く」にチェックをして、ディレクトリを入力します。

「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。



ユーザー毎に設定することはできません。全てのユーザーに対して有効になります。

##### ● エラーメッセージ設定

運用ポリシーに合わせて選択をしてください。

「設定する」ボタンをクリックすると設定が完了します。

## ■ CGI/SSI の設定について

HDE Controller では、ドキュメントルートの下(/home/lcvirtualdomain/domain/htdocs/cgi-bin)に cgi-bin ディレクトリが設定済ですが、ディレクトリを事前に作成しておく必要がありますので、FTP クライアントソフトやファイルマネージャーを利用して htdocs の下に cgi-bin ディレクトリを作成する必要があります。

上記以外のディレクトリやドキュメントルートに対して CGI/SSI を有効に設定するには、ディレクトリの管理/追加でおこないます。

「ディレクトリ追加」画面で、設定したいディレクトリを入力して CGI/SSI の使用可を選択してください。

「進む」ボタンをクリックして次の画面に移り「設定する」ボタンをクリックしてください。

追加したディレクトリにホストの制限をかけない場合は、ホストの制限はデフォルトのままにしておきます。

設定の変更は、「ディレクトリ管理」画面より行うことができます。



バーチャルドメインのユーザーに CGI/SSI を許可する設定は、リアルドメインからのみおこなえます。

## ■ .htaccess(分散設定ファイル制御/AllowOverride)を利用するには

「ディレクトリ管理」及び「ディレクトリ追加」で設定がおこなえます。

AllowOverride 指示子に指定する設定を画面より選択してください。

## ■ ディレクトリ認証について

特定のディレクトリにアクセスした際に、ログイン名とパスワードの入力を求めるように設定するには「ディレクトリ認証設定」画面でおこないます。

設定を行うには

1. 「ディレクトリ追加」画面で、認証を設定したいディレクトリを追加します。
2. 「ディレクトリ認証設定」画面で、追加しておいたディレクトリ名のフォルダーアイコンか「編集ボタン」をクリックします。
3. 「認証機能を有効にする」にチェックをして、ユーザー名とパスワードを入力して「追加ボタン」をクリックします。複数のユーザー名とパスワードを設定したい場合は、繰り返し追加してください。
4. 追加が完了しましたら、「戻る」ボタンをクリックして「設定する」ボタンをクリックしてください。

## ■ アクセスログの解析(アクセスランキング)について

「時間毎のレポート」や「一般的なレポート」から項目を選択して解析した結果を表示することができます。

この機能では、analog というプログラムが利用されており、各項目についての詳細や結果の見方につきましては日本 Analog ユーザー会(<http://www.jp.analog.cx/>)のホームページをご覧ください。

### 3. バーチャルドメイン

#### ■ 鍵と証明書(SSL)設定

##### ● 既にサイト証明書を取得している場合

「鍵・証明書のアップロード」よりアップロードをおこなってください。

##### ● 新規にサイト証明書を取得する場合

以下の手順で証明書署名要求(CSR)を作成して、お申し込みください。

1. 「Web サーバーの SSL キー設定」画面で、必要事項を入力し、「新しい SSL 秘密鍵/公開鍵のペアと、証明書を作り直します。」にチェックをして「設定する」ボタンをクリックします。
2. 証明書署名要求(CSR)が作成されていますので、「鍵・証明書のダウンロード」画面より証明書署名要求(CSR)をダウンロードして証明書発行機関に申請してください。
3. 発行されたサイト証明書を「鍵・証明書のアップロード」よりアップロードをおこなってください。



パスフレーズ付きの秘密鍵には対応していません。

##### ● Web コンテンツのアップロードについて

FTP クライアントソフトを利用して Web コンテンツをアップロードするには、以下のようにクライアントソフトを設定してください。

- ・ サーバー名: ftp.ドメイン名
- ・ ユーザー名: admin@ドメイン名
- ・ パスワード: admin のパスワード
- ・ リモートホストの初期フォルダー: htdocs(SSL の場合は、htdocs\_ssl)

ユーザー用の設定

- ・ サーバー名: ftp.ドメイン名
- ・ ユーザー名: ユーザー名@ドメイン名
- ・ パスワード: ユーザーのパスワード
- ・ リモートホストの初期フォルダー: public\_html

## 6. メールサーバーの管理

バーチャルドメインのメールサーバーに関する各種設定を変更することができます。  
メインメニューの[メールサーバー]をクリックし、メールサーバー設定画面に入ります。

### ■ スプール容量制限

サブメニューから、「スプール容量制限」メニューをクリックします。



スプール制限容量の設定画面には、ユーザーの一覧及び現在のスプール容量制限値が表示されています。画面に表示しきれなかったユーザーは、頭文字検索及び文字列検索により表示させることができます。

ユーザーリスト右側の「編集」ボタンをクリックすると、「メールスプール容量設定」画面に入り、対象ユーザーのメールスプール容量を設定することができます。



制限容量をメガバイト単位で指定します。特に制限をかけない場合は、「メールスプールに容量制限をかけない」チェックボックスにチェックを入れます

設定が終了しましたら、「OK」ボタンをクリックして「スプール制限容量の設定」画面に戻ります。「設定する」ボタンをクリックすると、設定が有効となります。

### 3. バーチャルドメイン

#### ■ エイリアス設定

サブメニューから、「エイリアス設定」メニューをクリックします。



メールアドレスのエイリアス(別名)を設定することができます。追加を行う別名を「追加エイリアス名」に入力し、実際のメール配送先となるアドレスを「エイリアス値」に入力し、「追加」アイコンをクリックすると下部のリストに追加されます。

設定値の削除・編集を行うには、リスト右側の「削除」「編集」アイコンをクリックします。

リストの編集が終了しましたら、「設定する」ボタンをクリックするとエイリアス値が有効となります。

#### ■ 宛先不明メール転送設定

サブメニューから、「宛先不明メール転送設定」メニューをクリックします。



バーチャルドメインの存在しないアカウント宛てに届いたメールをどのように処理するか設定することができます。

送信者に送り返す、もしくは指定のメールアドレスに送信することができます。

入力が終了しましたら、「設定する」ボタンをクリックして設定を有効にします。

## 7. メーリングリストの管理

HDE Controller ではメーリングリストの作成・管理をブラウザ上から簡単に行うことができます。個々の機能につきましては、マニュアルに詳細に記述されておりますので、そちらをご参照ください。この章では、典型的なメーリングリストの作成・削除方法を、順を追って解説します。



以前のバージョンよりアップグレードした場合、管理画面でコメントが表示されませんので該当リストの編集をおこない、メーリングリスト設定でコメントを入力してください。

(以前のバージョンにあった定型のタイプは廃止になりました。)

### ■ メーリングリストの作成

メインメニューの[メーリングリスト]をクリックし、メニューの[メーリングリスト追加]をクリックします。

例として、参加者は誰でも発言できるメーリングリストを作成します。コミュニティ内での交流に適した設定をおこないますが、「参加・脱会は本人のみ」「メンバーは参加者名簿の閲覧が可能」「参加者以外の発言を禁止」という設定がよいでしょう。

また、参加条件を少し厳しくして「参加は管理者の承認が必要」としてもよいでしょう。

「メーリングリスト名」を設定します。ドメイン部は常に自分のバーチャルドメイン名となります。

「コメント」を入力します。コメントは管理画面で表示される項目になります。

「管理者メールアドレス」に、管理者のメールアドレスを設定します。

「管理者用パスワード」に、パスワードを設定します。設定されたパスワードはコマンドメールの承認等に使用されます。

「返信先メールアドレス」を設定します。この欄が空欄になっていると、返信先として送信者のアドレスが設定されます。「コミュニケーション型」のメーリングリストの場合には、返信先がメーリングリストに設定されている方が好ましいので、「メーリングリスト名」と同じアドレスを入力してください。

「最大メッセージサイズ」は必要に応じて設定します。

### 3. パーチャルドメイン

「アーカイブ」を保存するにした場合、バックナンバー等の取得が可能になります。

「参加方法」は、「本人のみ」にします。

「退会方法」も、「本人のみ」にします。

「参加者一覧取得」は、「メンバーのみ」にします。

「参加リスト一覧取得」も、「メンバーのみ」にします。

入力が全て完了しましたら、下部右側の三角のアイコンをクリックして次の画面に進みます。



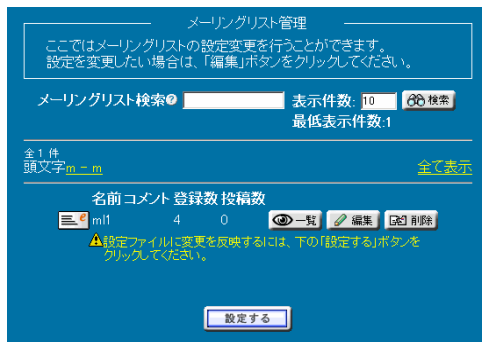
この画面では、初期設定時のメーリングリストメンバーを設定します。前画面の管理者アドレスは自動的に設定されています。

アドレスの追加を行う場合は、1行に1アドレスの形式で入力します。

入力が全て完了しましたら、「設定する」アイコンをクリックします。以上でメーリングリストが作成されます。

#### ■ メーリングリストの削除

メインメニューの[メーリングリスト]をクリックし、メニューの[メーリングリスト管理]をクリックします。



下部に現在登録されているメーリングリストの一覧が表示されておりますので、削除したいメーリングリストの「削除」アイコンをクリックします。「設定する」をクリックすれば、メーリングリストの削除が完了します。



## 8. ネームサーバーの管理

自バーチャルドメインのネームサーバーレコードを管理することができます。  
メインメニューの[DNS サーバー]をクリックし、メニューの[レコード管理]をクリックします。



ゾーン「example.com」のレコード管理  
このゾーンに新規レコードを追加したり、レコードの削除を行うことができます。

レコード追加

レコード	TTL	レコード種別	レコードの値
example.com	3600	A	

レコードリスト

レコード	TTL	レコード種別	レコードの値
example.com	3600	NS	example.com
example.com	3600	A	202.211.133.101

戻る キャンセル 設定する

「レコード」には、ホスト名を入力します。ドメイン部を変更することはできません。

「レコード種別」には、どのようなレコードを登録するかを入力します。

「レコードの値」には、「レコード」に対応する IP アドレスまたはホスト名を入力します。A レコードの値としてホスト名を入力することはできません。

**ホスト名を登録する場合には、必ず末尾にドット"."を付加するようにします。**

レコードを削除するには、各レコードの右側にある「削除」アイコンをクリックします。

全ての設定が終了したら、「設定する」ボタンを押します。以上でレコードの登録及び削除が完了します。

## 3. バーチャルドメイン

### 9. FTP サーバーの管理

FTP サーバーの設定を行うことができます。

メインメニューの[FTP サーバー]–[基本設定]をクリックします。

#### ■ 基本設定



FTP ログイン後のルートディレクトリを指定します。

#### ■ Anonymous FTP の設定



Anonymous FTP とは、アカウント認証を必要とせずにシステムの公開領域への FTP アクセスを可能とする機能です。この機能を有効にするには、「Anonymous FTP を有効にする」チェックボックスをチェックします。また、「認証クライアント最大数」を設定することにより、同時アクセスユーザー数を制限することもできます。

チェックが終了したら、「設定する」ボタンをクリックします。以上で Anonymous FTP の設定が有効になります。

#### ■ incoming ディレクトリの設定

incoming ディレクトリとは、不特定のユーザの FTP アップロードを許可するディレクトリです。この機能を有効にするには、「incoming ディレクトリへの書き込みを有効にする」チェックボックスをチェックします。

チェックが終了したら、「設定する」ボタンをクリックします。以上で incoming ディレクトリの設定が有効になります。

Anonymous FTP 及び incoming ディレクトリ機能を有効にすると、限定された領域のみとはいえ、不特定のユーザーからのアクセスを許可するリスクを発生させることとなります。特に必要が無い場合は無効にしておく事をお勧めします。

## 10. ユーザーの管理

HDE Controller では、ブラウザ上からユーザーの管理を簡単に行うことができます。  
メインメニューの[アカウント]をクリックし、アカウント管理画面に入ります。

### ■ ユーザーの追加

ユーザー追加  
あと945人のユーザーを追加することができます。

ユーザー名(ログイン名)

パスワード

パスワード(再入力)

グループ

追加情報(本名など)

シェル

利用不可

その他

メール

POP及びAPOPで認証

POPのみで認証

APOPのみで認証

利用不可

FTP

利用可

利用不可

アカウント有効期限

無制限

年 月 日

ホーム領域制限 容量制限は利用できません。

メールスプール領域制限  MBytes

サブメニューから、「ユーザー追加」メニューをクリックします。

この画面の必要項目を入力し、「設定する」ボタンをクリックすることにより、新規ユーザーが追加されます。各設定項目の詳細につきましては、マニュアルをご参照ください。

作成されたユーザーがシェルまたは FTP でログインするには、ユーザー名を `user@virtualdomain` の形式で入力します。  
例えば、バーチャルドメイン名が `virtualdomain.isp` で、ユーザー名が `hde` のユーザーがログインするためには、`hde@virtualdomain.isp` と入力する必要があります。ユーザー名 (`hde`) だけではログインすることはできません。

### 3. パーチャルドメイン

「テンプレート設定」機能を使用することにより、ユーザー追加画面の初期値を変更することができます。

ユーザーテンプレート設定  
ユーザーの追加時のデフォルトテンプレートを設定します。

シェル  /bin/bash  
 利用不可  
 その他

メール  POP及びAPOPで認証  
 POPのみで認証  
 APOPのみで認証  
 利用不可

FTP  利用可  
 利用不可

アカウント有効期限  無制限  
 ---年--月--日

ホーム領域制限 容量制限は利用できません。  
メールスプール領域制限  MBytes

この機能を利用することにより、ユーザー追加画面での入力項目を省略できるようになります。

#### ■ ユーザーの編集・削除



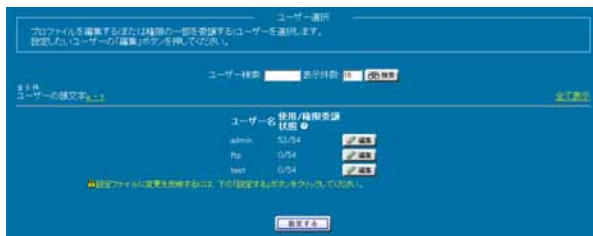
サブメニューから、「ユーザー管理」をクリックします。

ユーザー管理画面には、登録ユーザーの一覧が表示されています。画面に表示しきれなかったユーザーは、頭文字検索及び文字列検索により表示させることができます。

また、この画面からは、ユーザー情報の編集及び削除を行うことができます。ユーザー情報を編集するには「編集」アイコンを、削除するユーザーを指定するには「削除」アイコンをクリックします。編集アイコンをクリックすると、ユーザー情報編集画面が表示されます。項目を編集し「OK」ボタンをクリックすると、ユーザー管理画面に戻ります。

編集及び削除の指定が終了したら、「設定する」ボタンをクリックすることにより、設定が完了します。

## ■ アクセス権限設定



サブメニューから「アクセス権限設定」をクリックします。

アクセス権限設定画面には、登録ユーザーの一覧及び現在のアクセス権限状態が表示されています。画面に表示しきれなかったユーザーは、頭文字検索及び文字列検索により表示させることができます。

アクセス権限を変更するには、ユーザーリストの右側の「編集」アイコンをクリックします。



一般ユーザーのデフォルト状態では、「個人情報管理」と「ファイルマネージャー」のみ使用可となっていますので、目的にあわせて権限を増減させてください。適切に設定することにより、メール転送機能を使用できないユーザーや、一般ユーザーでありながらユーザー追加権限を持ったユーザーを作成することもできます。

権限の選択が完了したら、「戻る」アイコンをクリックして一覧画面に戻り、「設定する」アイコンをクリックすることにより、設定が完了します。